

## 子どもの安全と快適さを保証する気管内チューブの固定法を考える

横尾 京子<sup>1)</sup>, 内田美恵子<sup>2)</sup>

キーワード (Key words) : 1. 気管内チューブ (endotracheal tube)  
2. チューブ固定 (tube fixation)  
3. 標準化 (standardization)

安全な医療を保証することは、患者・家族との信頼を維持するうえで不可欠な要件である。医療は人間の感覚、判断、動作を基盤として成り立っており、また、人間の能力には限界や特性があることを考えると、安全を保証するには、こうしたことに適合するシステムを準備する必要がある<sup>1)</sup>。NICUの場合、意思疎通が図れない新生児が医療の対象であり、相手からの確認や協力を得ることができないという特殊性においても、事故防止と安全確保には十分な対策が必要となる。

NICUにおけるインシデント・アクシデント前向き調査<sup>2)</sup>をみると、「呼吸器の管理」は、「注射・点滴・輸血」「経管栄養」「内服薬の与薬」よりも件数は少ないが、新生児への影響においては「レベル3：簡単な処置や治療を要する」に占める「呼吸器の管理」の割合が多い。なぜならば、「呼吸器の管理」で最も多い内容が、生命への影響が即座に現れる「抜管（チューブの位置のずれも該当）」だからである。

気管内チューブが挿入されている場合、抜管予防のためにさまざまな対策がとられる<sup>3)</sup>。例えば、チューブが引っ張られないよう臀部や頭部を砂嚢などで固定するという方法は、従来から行われている方法である。場合によっては、上肢を抑制することもある。最近では、ポジショニング物品を用い、安楽な姿勢を保持することによって安静を促す方法がとられるようになってきている。また、固定法については、施設によってさまざまな工夫がなされている。

抜管予防を考える場合、どのようなチューブ固定法が、新生児への負担が少なく、かつ、抜管し難い方法なのかと考える。しかし、このような疑問に答え得る文献はなく、平成14年に気管内チューブの固定法に関する実態調査を実施した<sup>4)</sup>。その結果、7分類・36タイプという多種多様な固定法が明らかになった。

そこで、気管内チューブ固定法を標準化する一環として、第14回日本新生児看護学会（会長：上谷いづ子）において、「子どもの安全と快適さを保証する気管内チューブの固定法を考える」というテーマでワークショップを企画し、検討することになった。

### 引用文献

- 1) 小松原明哲：ヒューマンエラー。丸善株式会社，東京，21-36，2003.
- 2) 新生児看護の標準化に関する検討委員会（委員長：横尾京子）：安全・事故対策：インシデント・アクシデント前向き調査。日本新生児看護学会誌，10（2）：89-96，2004.
- 3) 新生児看護の標準化に関する検討委員会（委員長：横尾京子）：身体固定法。日本新生児看護学会誌，10（2）：74-76，2004.
- 4) 新生児看護の標準化に関する検討委員会（委員長：横尾京子）：気管内チューブの固定法。日本新生児看護学会誌，10（2）：4-15，2004.

・本シンポジウムは、平成15年度・16年度 厚労省科研費補助金（医療技術評価事業）により実施した調査結果に基づくものである。

・ Consider the way of fixing a tube in trachea which vouch for children's safety and comfortable.  
・ 所属：1) 広島大学大学院保健学研究科 2) 長野県立こども病院  
・ 日本新生児看護学会誌 Vol.11, No.2 : 24, 2005